

ひまわり

平成24年6月1日
神戸市立稗田小学校
校長 牧坂浩一

父の日に思う

6月17日は「父の日」です。この日の由来をひも解いてみると、もともとはアメリカ合衆国のスポケーンという地方都市に住む女性、ドット婦人の願いから始まったようです。南北戦争より復員してきた彼女の父ウィリアムは、復員後すぐに妻に先立たれ、ドット夫人を含む6人の子どもたちを男手一つで育て上げました。ウィリアムは子どもたちが成人した後、亡くなってしまいましたが、ドット婦人は父親への感謝の気持ちから「母の日同様、父の日も必要」と父の日の制定を嘆願しました。このことがもとになって「父の日」が広く認知され、1966年、合衆国第36代大統領リンドン・ジョンソンは6月の第3日曜日を「父の日」と定める大統領告示を发出。数年後の1972年には正式に国の記念日に制定されました。現在、日本を含む世界20数か国で6月の第3日曜日を「父の日」としています。

私事になりますが、昨年10月、私は父親を亡くしました。85歳でした。一昨年3月に母親も85歳で亡くなりましたので、もう実の両親はいなくなっていました。母親の死後、父親は一人暮らしをしていました。口に出しては言いませんでしたが、半世紀以上も連れ添った妻を亡くした後は元気がなくなり、かなり寂しかったようです。しかし、息子である私の元へは最後まで来ようとしませんでした。長い間、夫婦で過ごした場所を離れることをためらっていたのでしょう。それでもさすがに亡くなる2ヶ月ほど前になると、「ここに一人でいてもしょうがないわなあ」と、息子と一緒に暮らす方向に気持ちが傾いたようでした。が、それからすぐ病院に入院し、あっけなく帰らぬ人になってしまいました。息子としてもっと何かしてあげられたはずなのに、いや何とかすべきだったのにと、いまだに悔やまれてなりません。人の死というのは本当に絶対的なもので、亡くなった人に対する意思の伝達手段は、死によって永久に断たれてしまいます。まさしく「親孝行したいときには親は無し」です。

さて、父親ウィリアムの死後、直接、親孝行することができなくなったドット夫人でしたが、彼女は父親への深い思慕と強い感謝の気持ちを「父の日」制定という目標を掲げることで形に残したことになります。母の日の花はカーネーションですが、アメリカでは父の日にバラの花一輪在の父親には赤バラ、亡くなった父親には白バラをおくるようです。

本校児童の家庭状況は一律ではなく、それぞれに状況は異なっていますが、父の日を迎えるにあたってはポジティブな感情を大切にしたいと思っています。親孝行も十分にできなかった私としては白バラの一輪でも供え、せめて父親とのなつかしい思い出にふける時間くらいはもちたいと考えています。

学校長 牧坂浩一

お知らせ

3年2組担任 平山紀子教諭が6月1日より復職します。今まで3年2組を受け持っていました 三石友子講師は退任いたしますのでお知らせいたします。

引き続き、本校教育活動推進のためご理解とご協力をお願いいたします。